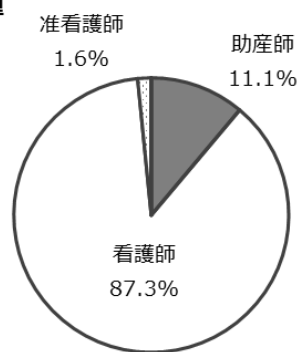


実習指導者講習会修了者・関係者等の交流会

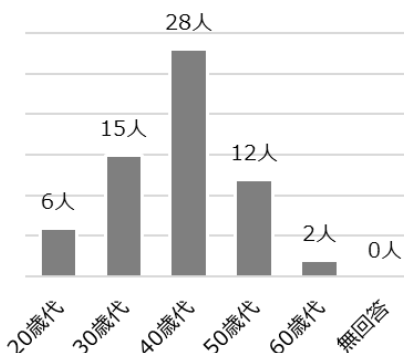
目的：参加対象者の交流会を通して、教育と臨床の連携を強化できる。

時間	10:00~12:00	13:30~16:30
目的	実習指導者講習会修了者の実際の活動状況等を関係者で共有し、今後の課題を明確にする	「教育」に関する学びを深めることによる連携の強化、ならびに新しい指導者との意見交換による「共有」の認識が強化できる
内容	臨床に戻っての振り返り 現状報告、グループワーク、意見交換	講演「専門職を育てるとは」
講師	長崎県立大学シーボルト校 准教授 吉田 恵理子 先生	東京工科大学 名誉教授 齊藤 茂子 先生
対象	令和5年度実習指導者講習会修了者	実習指導者講習会修了者 看護管理者 教育担当者 看護教員 実習指導に関心のある看護職の方 等
定員	35名	70名

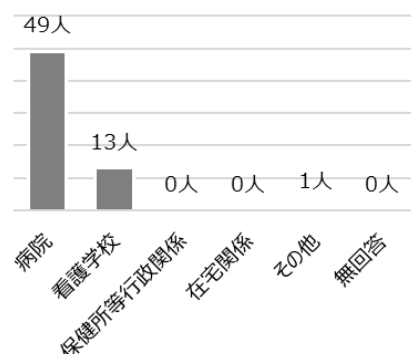
職種



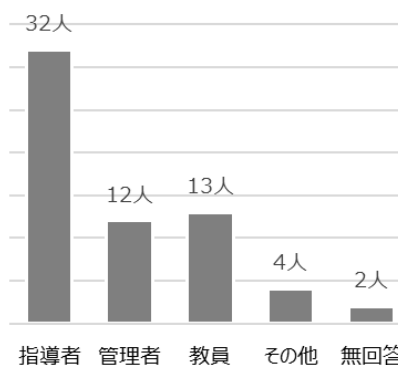
年齢

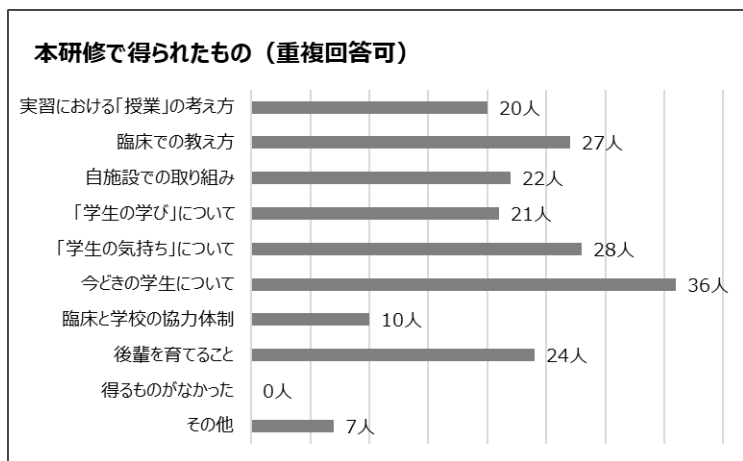
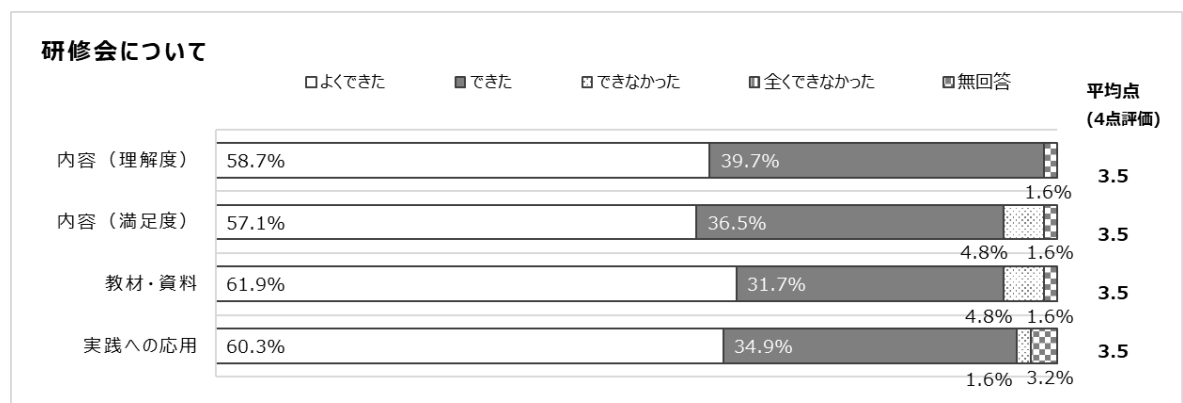


職場の施設



職場での立場





受講者数	66人
回答者数	63人
回答者率	95.5%

※割合の合計は四捨五入の関係で100%とならない場合があります。

<評価>

臨床教育に影響が大きい管理者や指導者の受講減少がみられた。学校関係者には前年度同様の対策で、ほぼ同数の参加者を得た。結果、臨床側と学校参加者の比率は約 5 : 1 を昨年同様保った。研修会の「満足度」「教材・資料に関する満足度」「実践への応用」に関してはほぼポジティブ回答であった。「授業」としての考え方や臨床での教え方、今どきの学生についての学びに関して前年度と大きな変化はない。半面、自施設での取り組みや協力体制に関して学びの返答は減少した。しかしながら「お互いを気遣いながら目標を確認し、同じ方向を向けるよう努力したい・連携を密にしていきたい・双方が言葉に表すことで共通理解に繋がりよりよい実習指導に繋がると考える」等の記載や、新しい知識習得に関するコメントや今後実践していきたいとする意識の変容についてのコメントがあった。連携の強化までには至っていないが、教育に関する知識獲得により必要性の認識には至っていたと思われる。

<課題と今後の取り組み>

交流による連携の強化に再度特化した内容検討を必要とし、次年度に向けて「臨床」「学校」「行政」の基礎看護教育への考えかたを伝えてもらうシンポジウム形式と意見交流を活発化させるためのリアルタイムアンケートの活用を考える。